

Express5800 シリーズ、iStorageNS シリーズ
Windows Update による Intel(R) Management Engine Interface の
ドライバーの誤適用について

日頃より、弊社 Express5800 シリーズ、iStorage NS シリーズをご愛用いただき、厚く御礼申し上げます。
Express5800 シリーズ、iStorage NS シリーズの下記の機種において、Windows Server(以下 WS) 2012、
WS2012R2(*注 1)の場合に、Intel® Management Engine Interface に期待しないデバイスドライバが適用
され、一部の機種で不具合事象が発生しています。

確認方法と修復手順を 2 章に記載しますので、内容をご確認の上対応くださいますようお願いいたします。

(表 1 のグループ 3 の機種では障害事象が確認されていませんが、期待しないデバイスドライバが適用されているため、修復をお勧めします)

なお、本修復手順で修復した後は、期待しないドライバーを適用したアップデートが Windows Update に表
示されます。再度適用しない様ご注意ください。

(*注 1 WS2016 では 公開されているドライバー自体は装置に適用可能ですが、Windows Update で表示さ
れません)

1. 対象機種、発生事象と原因となる Windows Update

2. 1 対象機種ならびに発生する事象

表 1

機種グループ	機種名	障害事象
グループ 1	Express5800/GT110f, GT110f-S, R110f-1E, T110f-S, T110f-E Express5800/GT110g, GT110g-S, R110g-1E, T110g-S, T110g-E iStorage NS100Td, NS300Te, NS300Rd, NS100Te, NS300Tf, NS300Re	<ul style="list-style-type: none"> Windows 上から再起動の処理を行ったとき、再起動せずに電源(DC) Off してしまう(発生頻度は 100%)。 Wake On LAN に失敗する場合がある(発生頻度不明)。 Windows の System イベントログに次のようなログが残る場合がある(発生頻度不明) (*注 2) CPU 内部エラーが発生しました。 日時: YYYY/MM/DD HH:MM:SS CPU 番号: 0x01

(次ページに続く)

*注 2 Windows の System イベントログの例

Source: ESMCommonService Event ID: 1400

CPU 内部エラーが発生しました。

日時: YYYY/MM/DD HH:MM:SS

CPU 番号: 0x01

表 1 (続き)

機種グループ	機種名	障害事象
グループ 2	Express5800/GT110h, T110h, T110h-S, R110h-1 iStorage NS100Tg, NS300Rg Express5800/GT110i, T110i, T110i-S, R110i-1 iStorage NS100Th, NS300Rh	<ul style="list-style-type: none"> Windows の System イベントログに次のようなログが残る場合がある(発生頻度不明) (*注 3) センサの異常を検出しました。 センサ番号: 8Ah Windows の System イベントログに次のようなログが残る場合がある(発生頻度不明) (*注 4) センサの異常を検出しました。センサからの応答がありません。 センサ番号: 8Ah 上記センサ異常が発生したときに FAN が高回転になる場合がある。
グループ 3	Express5800/R120f-2E, T120f, R120g-2E, T120g iStorage NS500Rf, NS500Rg	障害事象は確認されていません。
	Express5800/R120f-1M, R120f-2M R120f-1E Express5800/R120g-1M, R120g-2M R120g-1E	障害事象は確認されていません。
	Express5800/E120f-M Express5800/E120g-M	障害事象は確認されていません。
	Express5800/B120f, B120f-h Express5800/B120g-h	障害事象は確認されていません。

*注 3 Windows の System イベントログの例

Source: ESMCommonService Event ID: 1901

センサの異常を検出しました。

センサ番号: 8Ah

位置: System Board 1

日時: YYYY/MM/DD HH:MM:SS

ID 文字列: Sensor Failure

SEL ダンプ: XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX

(※SEL ダンプの最後の 2 桁が下記 表 2 のセンサ番号の数字になります)

表2 グループ2のI2Cバス上デバイスのエラーの対象デバイス(*)

センサ番号**	センサ名	備考
28h	POWER	
29h	Processor1 POWER	
32h	PSU1 temp1	
3Bh	PSU2 temp1	冗長電源構成時
61h	Power Supply1	
62h	Power Supply2	冗長電源構成時
70h	PSU FAN1	
78h	PSU FAN2	冗長電源構成時
A2h	Proc1 Margin	
A6h	Chipset Temp	

(*すべてが同時に発生するわけではありません)

*注4 Windows の System イベントログの例

Source: ESMCommonService Event ID: 1900

センサの異常を検出しました。センサからの応答がありません。

センサ番号: 8Ah

位置: System Board 1

日時: YYYY/MM/DD HH:MM:SS

ID 文字列: Sensor Failure

SEL ダンプ: XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX

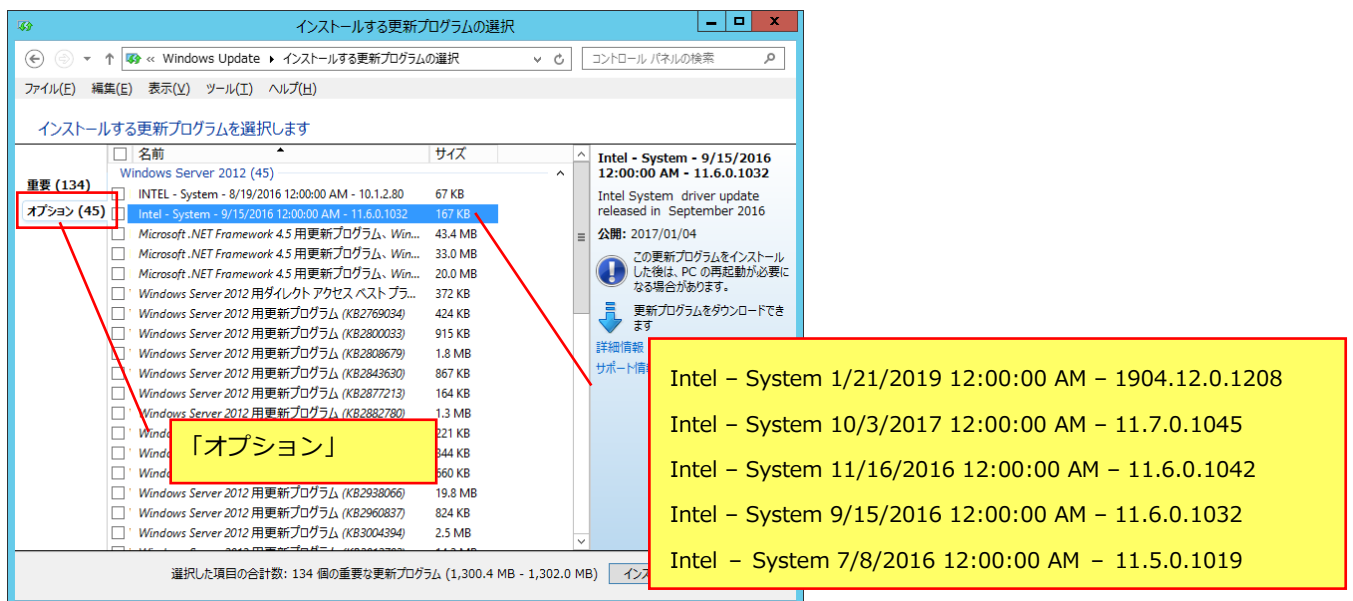
2. 2 事象の原因となる Windows Update

本事象を発生させる Windows Update として以下が確認されています。

2 章の対策を行った後には、再びアップデートが表示されます。適用しないようにご注意ください。

- Intel – System 1/21/2019 12:00:00 AM – 1904.12.0.1208
- Intel – System 10/3/2017 12:00:00 AM – 11.7.0.1045
- Intel – System 11/16/2016 12:00:00 AM – 11.6.0.1042
- Intel – System 9/15/2016 12:00:00 AM – 11.6.0.1032
- Intel – System 7/8/2016 12:00:00 AM – 11.5.0.1019

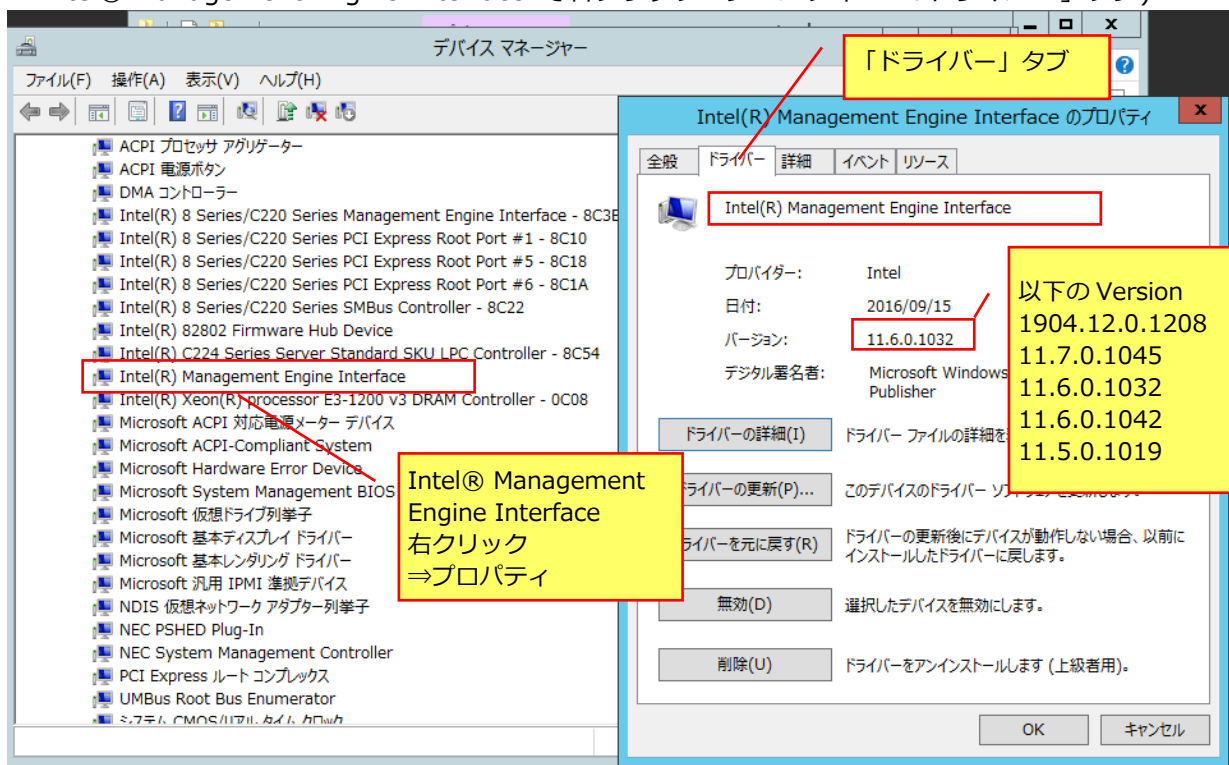
Windows Update での表示



本事象を発生させるデバイスドライバ適用されている場合、デバイスマネージャーでは次のように表示されます。

(デバイスマネージャー 「表示」 ⇒ 「非表示のデバイスの表示」

Intel® Management Engine Interface で右クリック⇒プロパティ ⇒「ドライバー」タブ)



2. 修復手順

2. 1. 修復作業の流れ

本章では Management Engine Interface ドライバーの修復手順の流れについて説明します。

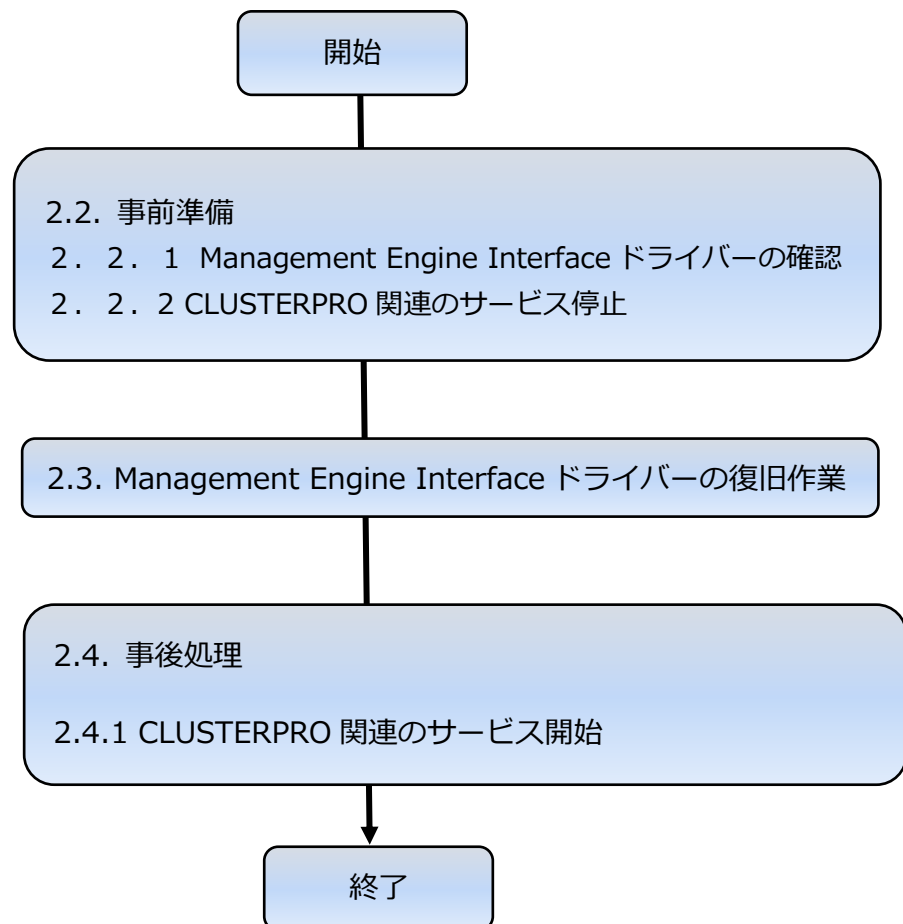


Management Engine Interface ドライバーの修復を完了するには、コンピュータの再起動が必要です。

- コンピュータの再起動がパワーオフする不具合環境下では本ドライバーの修復作業直後の再起動操作でパワーオフする恐れがございます。不具合発生の際には電源ボタン押下によりパワーオンしてください。なお、その後の再起動は正常に動作します。
- リモート環境下での本ドライバーの修復作業は行わないでください。(OS 起動失敗した場合の対処はリモートでは困難なため、ローカルコンソールで実施してください)



本手順書は、CLUSTERPRO を使用していることを想定した手順となっております。CLUSTERPRO を使用していないシステムの場合は、CLUSTERPRO 関連の手順 (2.2.2 項, 2.4.1 項) を飛ばして実施していただけますようお願い致します。



2. 2 事前準備

本章では、Management Engine Interface ドライバーを修復する前に必要な作業について説明します。



以下の作業はローカルコンソールから管理者権限(Administrator など)でログオンして実施してください。OS のリモートデスクトップ機能を使用しての作業はサポートしていません。(再起動がパワーオフする不具合環境下では、修復作業の後の再起動で電源 OFF するため、電源 ON が必要です。また、OS 起動失敗した場合の対処はリモートではできないため、ローカルコンソールで実施してください)

CLUSTERPRO を使用していない環境で Hyper-V をご使用の場合は、本ドライバーの修復作業を実施する前にすべてのゲスト OS をシャットダウンおよび自動起動の設定を解除してください。

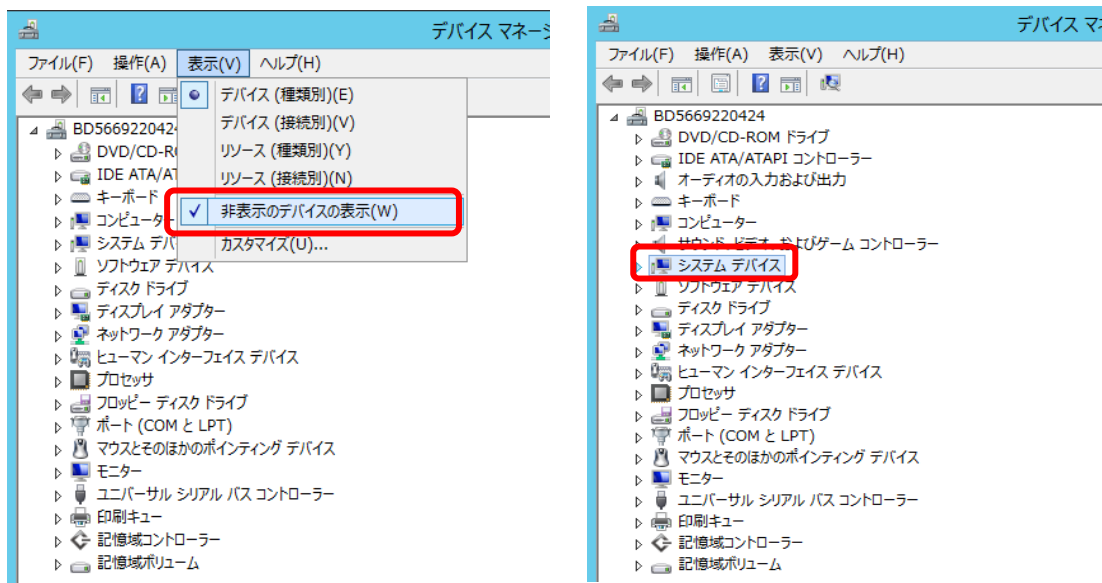
本作業を行う際は必ず他のウィンドウ等を閉じてから行ってください。

本手順を実行しても解決しない場合は別の問題が発生している可能性があります。解決しない場合は、お問い合わせの販売店または保守サービス会社にお問い合わせください。

2. 2. 1 Management Engine Interface ドライバーの確認

本項では、Management Engine Interface ドライバーの確認方法について説明します。以下の手順を参照し、Management Engine Interface ドライバー、及びバージョンを確認してください。

- (1) [デバイスマネージャー]を起動し、[表示(V)]から[非表示のデバイスの表示(W)]を選択してください。続いて[システムデバイス]を選択してシステムデバイスを表示させます。



(2) 以下の方法で Management Engine Interface ドライバーを確認してください。

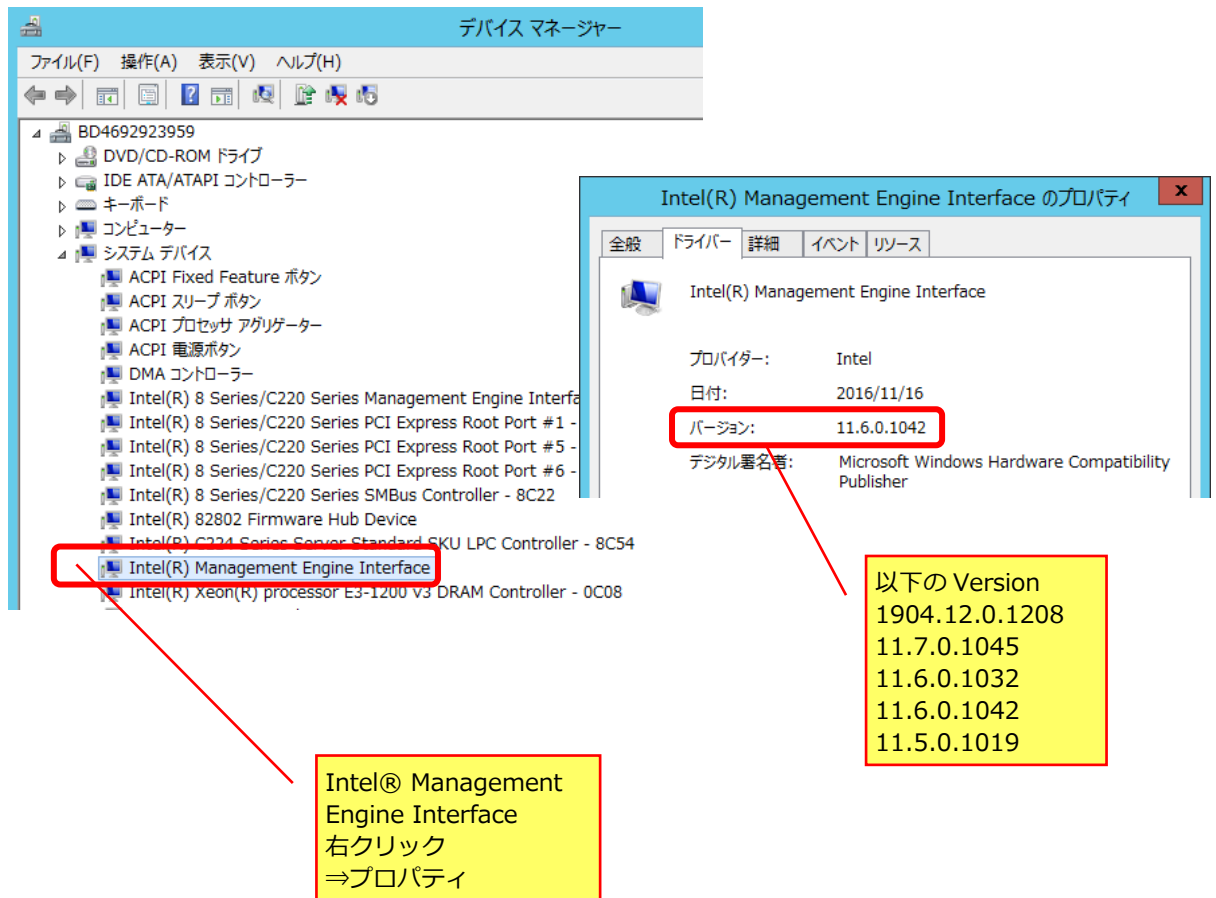
(a) 復旧作業が必要な表示

[Intel® Management Engine Interface]

(ドライバーバージョン : **11.5.0.1019、11.6.0.1032、11.6.0.1042、11.7.0.1045、
または、1904.12.0.1208**)

が表示される場合は本書で示すドライバーの修復作業を進めて下さい。

ドライバーバージョンを確認するには、当該デバイスを右クリックし[プロパティ]を選択します。
プロパティが表示されるので[ドライバー]タブを選択し、ドライバーのバージョンを確認します。

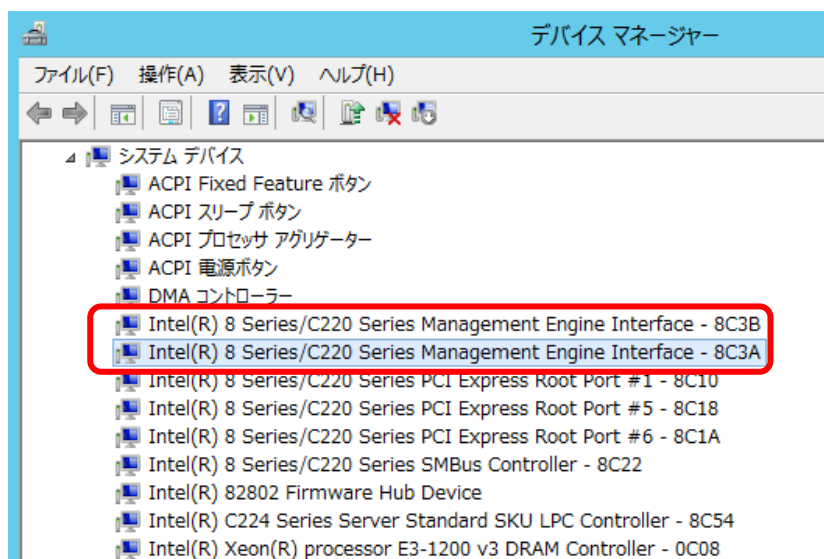


(b) ドライバーの修復が不要な表示

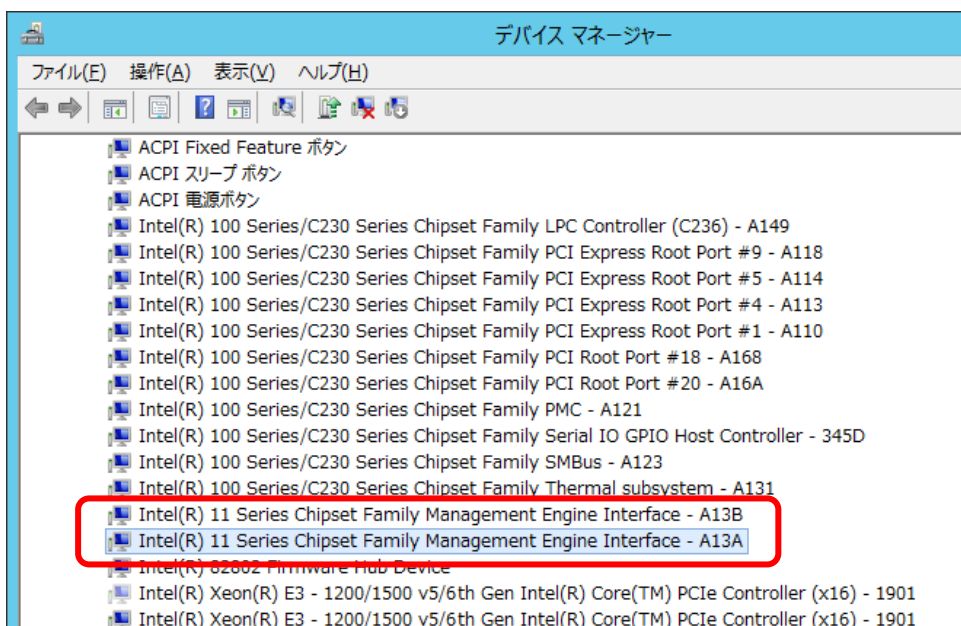
(a)で確認した [Intel® Management Engine Interface] が存在せず、次のデバイスが2個共に存在する場合には以降の修復作業は不要です。

機種グループ	
グループ 1	Intel® 8 Series Management Engine Interface – 8C3A Intel® 8 Series Management Engine Interface – 8C3B*
グループ 2	intel® 11 Series Chipset Family Management Engine Interface – A13A intel® 11 Series Chipset Family Management Engine Interface – A13B*
グループ 3	Intel® C610 series/X99 Chipset Management Engine Interface – 8D3A Intel® C610 series/X99 Chipset Management Engine Interface – 8D3B*

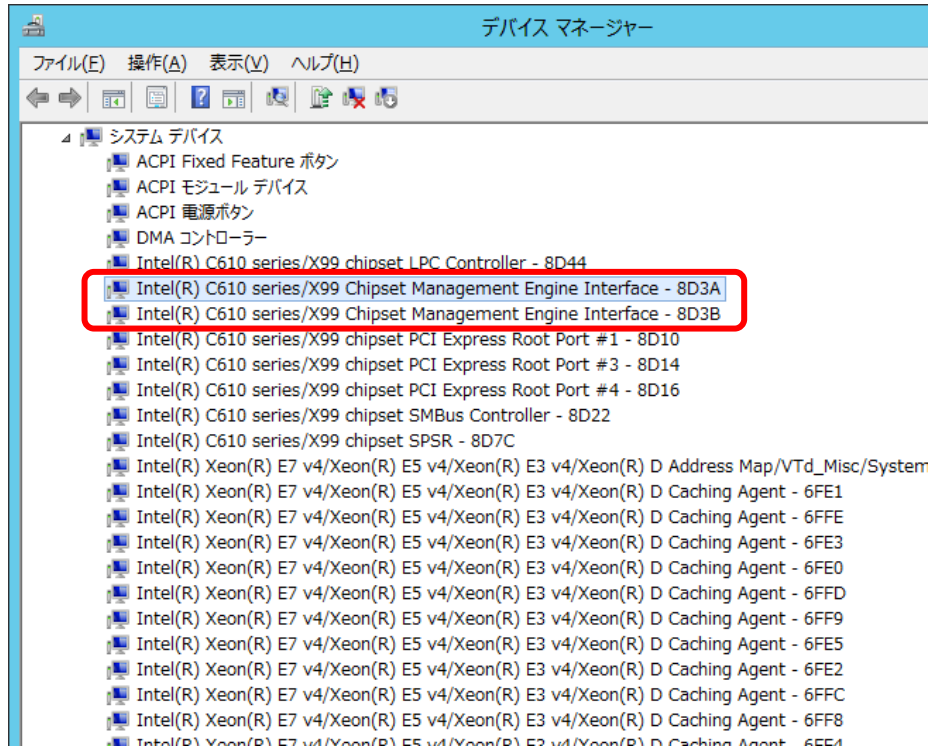
グループ 1 の問題ない場合：



グループ 2 の問題ない場合：



グループ 3 の問題ない場合：



2. 2. 2 CLUSTERPRO 関連のサービス停止

(本項は CLUSTERPRO を使用されている場合のみ対象です。未使用の場合は次項に進んでください)

以下の CLUSTERPRO のマニュアルを参照し、CLUSTERPRO 関連のサービスを停止してください。

<http://jpn.nec.com/clusterpro/clp/manual.html>

⇒ご使用のバージョンの CLUSTERPRO のマニュアルを選択

⇒リファレンスガイド

■WebManager からの操作

→第 1 章 WebManager の機能

→WebManager の画面

→WebManager からクラスタサービスの操作を行うには

■CLUSTERPRO コマンドリファレンスでの操作

→第 3 章 CLUSTERPRO コマンドリファレンス

→クラスタを操作する(clpci コマンド)

※シャットダウン完了後にシステムを起動して 4 項へ進んでください。

2.3 Management Engine Interface ドライバーの復旧作業

本章では、Management Engine Interface ドライバーの復旧作業について説明します。



以下の作業はローカルコンソールから管理者権限(Administrator など)でログオンして実施してください。OS のリモートデスクトップ機能を使用しての作業はサポートしておりません。(再起動がパワーオフする不具合環境下では、修復作業の後の再起動で電源 OFF するため、電源 ON が必要です。また、OS 起動失敗した場合の対処はリモートでは困難なため、ローカルコンソールで実施してください)

CLUSTERPRO を使用していない環境で Hyper-V をご使用の場合は、本ドライバーの修復作業を実施する前にすべてのゲスト OS をシャットダウンおよび自動起動の設定を解除してください。

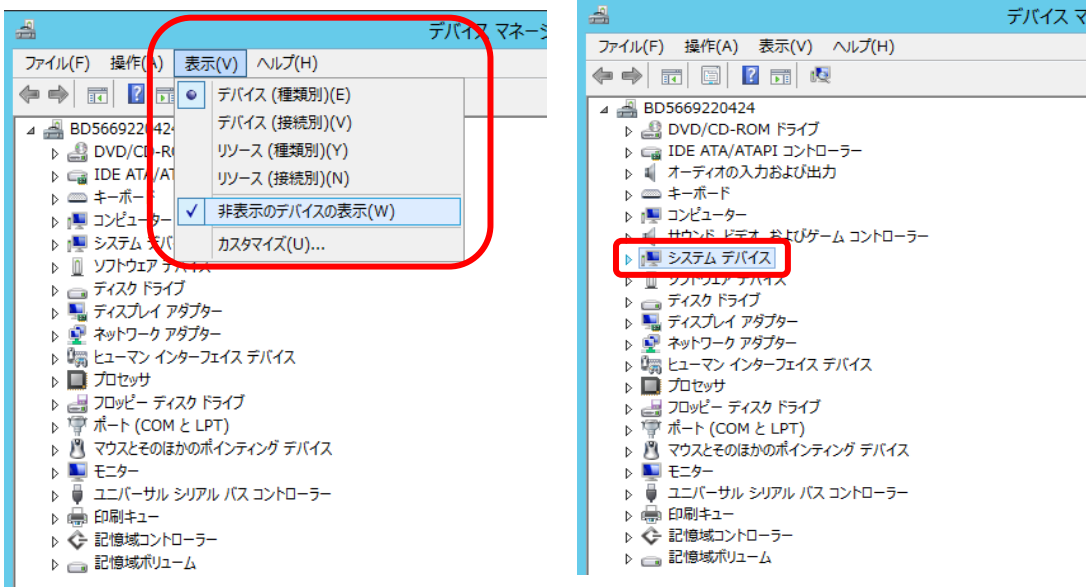
本作業を行う際は必ず他のウィンドウ等を閉じてから行ってください。

本手順を実行しても解決しない場合は別の問題が発生している可能性があります。解決しない場合は、お問い合わせの販売店または保守サービス会社にお問い合わせください。

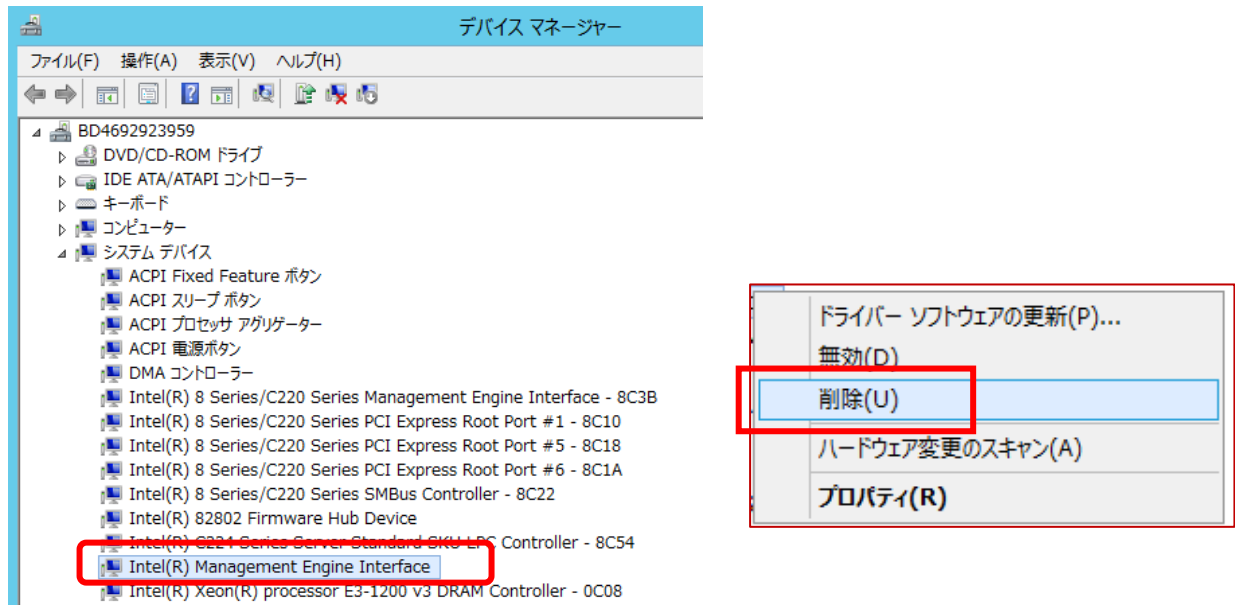
2.3.1 Management Engine Interface ドライバーの復旧作業

(a) [デバイスマネージャー]を起動し、[表示(V)]から[非表示のデバイスの表示(W)]を選択してください。

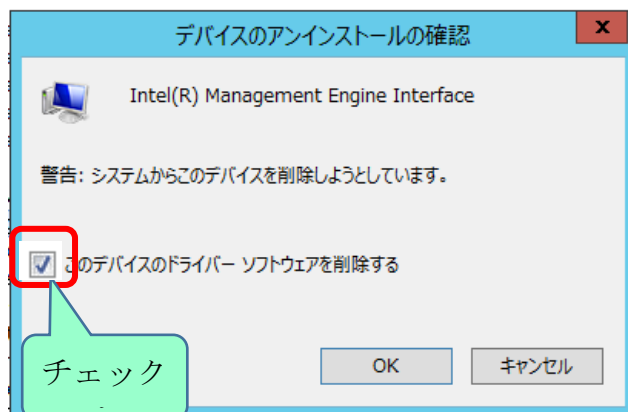
続いて[システムデバイス]を選択してシステムデバイスを表示させます。



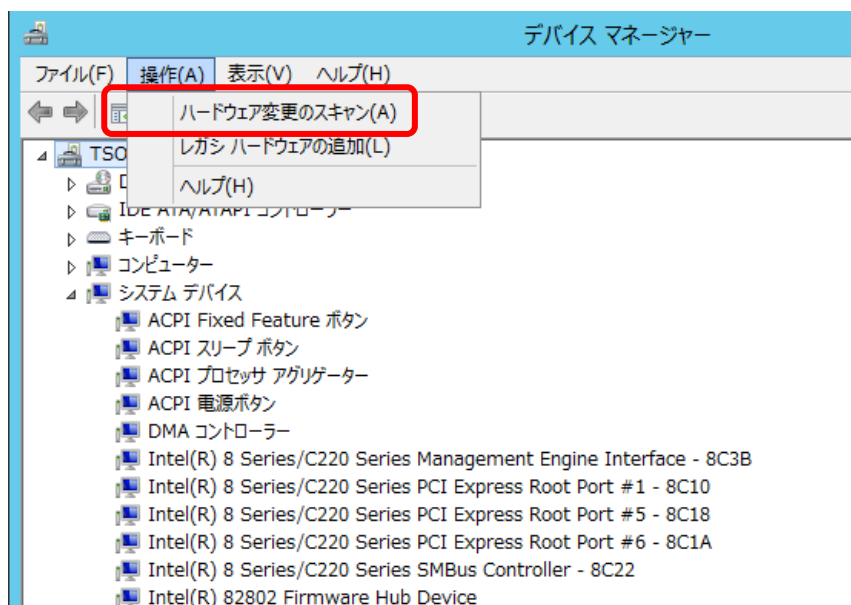
(b) Intel(R) Management Engine Interface にカーソルを合わせて右クリックし、削除を選択。



(c) デバイスのアンインストールの確認」が表示されるので、「このデバイスのドライバーソフトウェアを削除する」にチェックをつけて OK を押す。



(d) 操作⇒「ハードウェア変更のスキャン」を実施



(e) 2.2.1 (2) の「(b) ドライバーの修復不要な表示」を参照して、表示を確認してください。

(a)～(d)の手順を実施したのに、『Intel® Management Engine Interface』が表示される場合は、再度(a)～⑧の手順を実施してください。

(『Intel® Management Engine Interface』のドライバーが複数回更新されている場合は、更新を一つずつ削除する必要があるため、複数回の手順が必要です)

(f) 装置を再起動してください。本件が原因で STATUS ランプがアンバー点灯した場合には、AC 電源を一旦 OFF、ON してください。



Management Engine Interface ドライバーの修復作業を完了するには、コンピュータの再起動が必要です。

- コンピュータの再起動がパワーオフする不具合環境下では本ドライバーの修復作業直後の再起動操作でパワーオフする恐れがございます。不具合発生の際には電源ボタン押下によりパワーオンしてください。なお、その後の再起動は正常に動作します。
- リモート環境下での修復作業は行わないでください。

2.4 事後処理



CLUSTERPRO を使用していない環境で Hyper-V をご使用の場合は、本ドライバーの修復作業を実施する前にすべてのゲスト OS をシャットダウンおよび自動起動の設定を解除してください。
本作業を行う際は必ず他のウィンドウ等を閉じてから行ってください。
本手順を実行しても解決しない場合は別の問題が発生している可能性があります。解決しない場合は、お買い求めの販売店または保守サービス会社にお問い合わせください。

2.3.1 CLUSTERPRO 関連のサービス開始

(本項は CLUSTERPRO を使用されている場合のみ対象です。未使用の場合は次項に進んでください)
以下の CLUSTERPRO のマニュアルを参照し、CLUSTERPRO 関連のサービスを開始してください。

<http://jpn.nec.com/clusterpro/clp/manual.html>

⇒ご使用のバージョンの CLUSTERPRO のマニュアルを選択

⇒リファレンスガイド

■WebManager からの操作

→第 1 章 WebManager の機能

→WebManager の画面

→WebManager からクラスタサービスの操作を行うには

■CLUSTERPRO コマンドリファレンスでの操作

→第 3 章 CLUSTERPRO コマンドリファレンス

→クラスタを操作する(clpcl コマンド)

3. 注意事項

本章では、Management Engine Interface ドライバーの修復に関する注意事項を記載しています。

3.1 リモートデスクトップによる操作

本書に記載されている全ての操作は、必ず本体装置に接続したコンソールから実施してください。OS のリモートデスクトップ機能、または、その他の遠隔操作ツールを使用した操作は、サポートしていません。(再起動がパワーオフする不具合環境下では、修復作業の後の再起動で電源 OFF するため、電源 ON が必要です。また、OS 起動失敗した場合の対処はリモートでは困難なため、ローカルコンソールで実施してください)

3.2 操作時のアカウントについて

本書に記載されている全ての操作を行う際は、必ず管理者権限のアカウントでログオンまたは、サインインして実施してください。

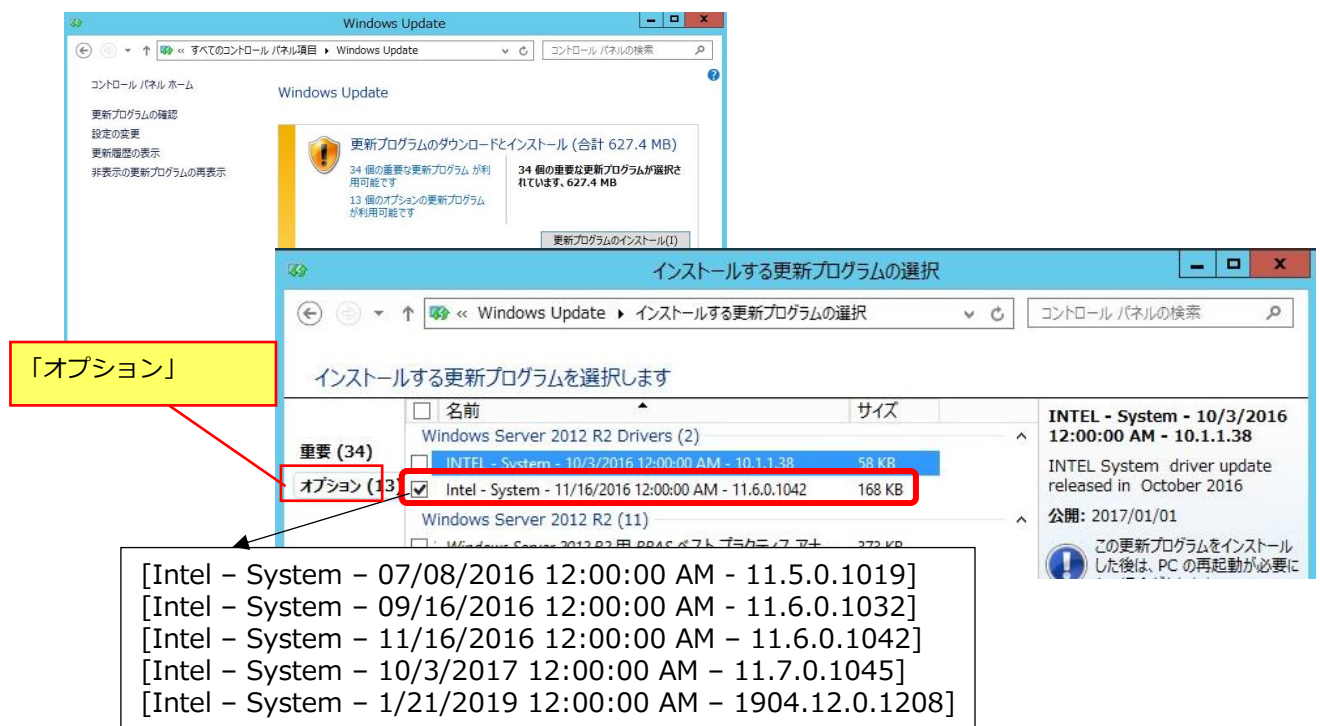
また、コマンドプロンプトは必ず管理者として起動してください。

3.3 Windows Update について

Windows Update を実施する際に、以下で表示される更新は選択しないで下さい。
更新を適用してしまった場合には、本手順書に従い修復してください。

[Intel – System – 07/08/2016 12:00:00 AM – 11.5.0.1019]
[Intel – System – 09/16/2016 12:00:00 AM – 11.6.0.1032]
[Intel – System – 11/16/2016 12:00:00 AM – 11.6.0.1042]
[Intel – System – 10/3/2017 12:00:00 AM – 11.7.0.1045]
[Intel – System – 1/21/2019 12:00:00 AM – 1904.12.0.1208]

<表示例>



変更履歴

Rev. Date	変更点
Rev.1 2017/05/19	手順書統合版、初版
Rev.1.1 2017/05/24	対象機種ならびに発生する事象の表 1 に以下のモデルが漏れていたので追加 グループ 1 NS300Te, グループ 2 GT110h、GT110i
Rev.1.2 2017/06/05	対象機種ならびに発生する事象の表 1 に以下のモデルを追加 グループ 3 Express5800/B120f, B120f-h Express5800/B120g-h
Rev.1.3 2017/06/26	2.3.1 項 ドライバーの復旧作業の手順の中に、STATUS ランプがアンバー点灯している場合には一旦 AC 電源 OFF/ON する手順を追加。
Rev.2.0 2017/07/31	P1. 本件の原因となるデバイスドライバが Windows Update から 2017/07/06 に削除された旨追加。 P1、P4. 本手順書で対処後、再び適用しないよう注意を促す記載を削除。
Rev.3.0 2018/02/23	新しく掲載が確認された以下のドライバを追加 [Intel – System – 10/3/2017 12:00:00 AM – 11.7.0.1045] Windows Update から問題のあるドライバが削除されている旨の記載を削除 対象機種 グループ 2 に iStorage NS100Th, NS300Rh を追加
Rev.4.0 2019/07/09	新しく掲載が確認された以下のドライバを追加 [Intel – System – 1/21/2019 12:00:00 AM – 1904.12.0.1208]